

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回の職員会議や毎日行う朝・夕の申し送りで話し合いをし職員は理念を共有し統一介護を行っている。新規に利用を開始する本人と家族には重要事項と理念を説明し納得している。玄関に来訪者にも解かる様運営規定を掲示している。職員一人一人が理念をしっかりと頭に入れ日々の介護をしている。	ホームの紹介パンフレットに理念を掲載すると共に利用契約時にも家族に説明している。やるべきケアをしっかりと行いアットホームでゆっくりと自由に生活していただくことに力を置き、挨拶や言葉使いは特に気を付けている。職員会議、申し送り等でもきめ細かな話し合いを重ね、理念に沿った支援ができるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区に加入し区費や神社費を支払っている。区の新年会や清掃活動に参加している。地域住民との交流を深めるよう職員に挨拶の徹底をしている。ホームの敬老会には近所の方に参加して頂くように声を掛け都合の付く方に参加して頂き、参加出来なかった方には手作りのお菓子を配った。	自治会費を納め地域の一員として活動している。区より行事案内を頂き、新年会や清掃活動等にも参加している。ホームの敬老会には地域住民の参加もあり、利用者との交流を図っている。また、民生委員から古いタオルを頂いたり、地域の人々から野菜なども頂き、日頃から地域の人々と繋がりのある日々を送っている。毎月第2水曜日には楽器演奏や紙芝居、カラオケ等のボランティアが来訪し楽しいひと時を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長さん、民生委員さんを通じて、介護について聞いてみたいこと等があったら自由に訪問して下さいとお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し家族が交代で参加され区長、民生委員、市担当者を変えホームの状況報告と活動報告をした。参加者からの要望及び助言をして頂きホームの運営やサービス向上に生かしている。会議終了後日朝の申し送り及び月1回の職員会議に全職員に報告、話し合いをしホームの向上に努めている。	区長、民生委員、市介護福祉課職員などの参加を得て2ヶ月に一回開催している。近況報告や活動報告、行事案内、今後の取り組みなどについて報告し、区の行事案内、特に、防災関連についての意見交換が活発に行われ、頂いた意見を運営に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類や制度上の変更等で解からない事は市の担当職員に助言や相談にのってもらっている。介護認定更新、区分変更申請は家族からの依頼もあり代行している。認定調査員の訪問時、家族に代わり本人の様子を伝えている。市主催の講習会にも参加している。	新しいホームとしての立ち上げ以来、市との繋がりが強くなっている。市介護保険課に小まめに足を運び様々なことを相談している。介護認定更新の調査は家族に連絡の上、調査員が来訪しホームにて実施している。安曇野市のグループホーム事業部会が立ち上がる予定で、介護保険課との会議を重ねている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書で身体拘束及び利用者の行動を制限しないよう定めている。治療上医師の指示でやむを得ない場合は医師、管理者より家族に説明し、了承を頂いている。	玄関は安全確保のため施錠しているが天気の良い日には開錠し小まめな所在確認を行うようにしている。身体拘束については全体会議や申し送り等で話し合いを重ね、拘束をしない支援に取り組んでいる。現状、転倒防止のためセンサーマットを使用している方が若干名いるが、医師や家族と相談しながら最小限の使用としている。	

グループホーム 恵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止について話し合いをしている利用者の行動を受け入れるようケアについて話し合いをする。職員相互の考え方を伝え話し合い、助言をし合う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の成年後見制度講習会へ参加し全体会議で話し合いをした。職員は理解を深めてきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居事前面談時契約書、重要事項説明書を家族に渡し、職員が読み上げ説明をしている。不安、質問等があればその時に話し合い、問題点を残さないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の意見が聞ける様意見箱を設置してある。家族来所時管理者及び職員が本人・家族と話しやすい雰囲気作りと場を作るようにして家族から要望等があった時はミニカンファレンスを開き、要望にそえるよう意見交換をする。職員と話しやすい雰囲気作りを努めている。	家族の来訪は多い方は週2回、少ない方でも月1回と全家族が来訪されている。来訪時には全職員が笑顔で挨拶をしお茶を出し言いやすい雰囲気作り心掛け、意見や要望等をお聞きしている。利用者の様子は毎月きめ細かく書面にし、また、職員のコメント入りスナップ写真も請求書に同封し知らせ、家族からも喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議では利用者の家族に交代で出席して頂き意見交換している。月1回全体会議を行い、意見を聞くようにしている。参加出来なかった職員には会議録を見てもらい伝達はしっかりしている。	月1回職員のコミュニケーションも兼ね夕食を取りながら全体会議を開催している。代表者・管理者と職員との信頼関係が厚いことが職員の声からも感じられ、会議も形式的でなく本音の言える意見交換の場となっている。利用者毎に各担当職員が1ヶ月の状況を発表し、全員でより良いケアに向けて話し合い、真摯に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤勤務状況を把握する為管理者も夜勤するようになった。勤務表作成前に希望を聞き、希望に添えるように配慮している。日勤帯の昼休みはゆっくり休めるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に多く参加するように申し送り時に研修内容を報告し参加希望を募っている。参加希望がない場合は順番で参加してもらっている。		

グループホーム 恵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表が近くのグループホームに一日研修に行かせていただいた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の感情を抑制させないように傾聴し共感的態度で接している。利用者が望んでいる事を感じ考えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内を案内し家族の気持ちを配慮しながら不安なこと、要望等をお聴きしている。質問しやすい雰囲気作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事や不安な事に対して支援の提案、相談を繰り返していく中で必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状態によりサービスを提供する事が大半の中全職員が介護する側される側を作らないよう努めている。利用者との会話で教えられたり励まされる事がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から頂く情報を大切に、ホーム側からも利用者の状態を伝え、一方通行にならないように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の希望・協力にて外泊、外出は可能である。面会も自由にできるようにしている。	平均年齢も上がり以前より来訪者は減ってきているが、近所の方や親せきの来訪があり、家族にも連絡を取り面会についての了解を取っている。帰宅願望の強い方がいるが、職員の手助けで家に電話を掛けるなどの対応をしている。多くの利用者は一日の大半をホールでくつろいでいるが、利用者間に職員が入り良い関係作りに努めている。	

グループホーム 恵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	9名の利用者同士の関係は利用者同士で築いていくもので職員はそれを十分把握している。認知症のレベルによりコミュニケーションが困難な場合孤立しないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後(医療機関、他施設、自宅等)約1ヶ月後にご家族に連絡し様子を聞く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めている。言葉や表情からその真意を推し測ったりそれとなく確認している。意思疎通が困難な方にはご家族が関係者から情報を得る。	ほとんどの利用者は自分の意思表示が出来、思いを表現し自由な生活を送っている。利用者の意思を尊重し本人の望むことを実現できるように心掛けている。ホールでの利用者の様子を見ていると穏やかで柔らかな表情で会話も多く聞かれた。利用者の生活状況は個人ファイルにまとめ、職員間の情報共有に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に調査、見学、家族の面会時に話を聞き、情報の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムの理解に努めている。出来ない面より出来る事を伸ばしていけるよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別に介護記録を作成し全職員が情報を共有している。変化があった時は随時カンファレンスを開いている。	職員の利用者担当制を取っている。全体会議の中でサービス担当者会議を行い全員で話し合い、状況に合わせ6ヶ月に1回の見直しを行っている。プラン変更については家族に相談し、意見を聞きプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成し全職員が情報を共有している。変化があった時は随時カンファレンスを開いている。		

グループホーム 恵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師が中心となり医療連携体制を整えている。看取りも行っている。病院や送迎等必要な支援を行っている。職員会議でその人、その時にあった介護を行うよう話し合う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っており、区長、民生委員の方にも入ってもらい協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までの医療機関への継続の希望がある場合は受診にお連れし、また利用者の健康状態に合わせて総合病院で受診する(家族の許可を得る)。更に入居時には協力医療機関を必ず説明している。	現在、全利用者がホームの協力医を利用している。各利用者の状態表を担当医師に提出し、月1回～2回の往診で対応している。緊急の場合は緊急連絡網で連絡を取り、管理者が対応している。歯科やその他専門科目の受診については職員がお連れしている。管理者が看護師でもあるので利用者の体調チェックをきめ細かく実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を1名確保し医療連携体制を整えている。日常の健康管理・服薬管理・医療機関との連携体制も整えている。また職員の医療・健康管理・緊急時の判断力の向上に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合には総合病院の病棟看護師と利用者の情報提供及び交換を行っている。また退院後の生活の準備を整え、当施設での生活が継続できるよう支援している。退院時は医師、看護師、栄養士、家族とのカンファレンスをして今後の方針を決めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアカンファレンス及び同意書・医師確認書等を記入し早い段階から家族に説明し、平行して医師からも説明を受ける。また看取りケアを行う際、医師・ご家族と職員とでカンファレンスを行う。	ホームとしての看取り指針があり家族に話している。前のホームの時に数名の看取り経験があり、現在1名の方の看取り介護が進行中である。指針の中にある「あるがままの生活、我が家のような生活」の主旨の通り本人の意思を最優先に考え、併せ、家族の気持ちも思い、協力医と連携を取りながらお互いの願いを汲み取りながらそれに沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の職員応援体制なども整備している。応急手当の仕方等も看護師が指導している。		

グループホーム 恵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制については、自治会でお願いしたり運営推進会議で協力を呼びかけている。職員の連絡体制も整えている。	本年度は4月に夜間想定避難訓練を行い、9月には消防署員参加の消火訓練、通報訓練を予定している。訓練計画書、実施報告書を基に全員で確認し防災意識を高めると共に、夜間一人体制時の緊急連絡網や職員のホームまでの到着時間等も事務所に掲示し万全を期している。水やカップラーメン、介護用品等の備蓄も準備されている。区の地震体験会にも参加し地域との連携も深めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして本人を傷つけてしまわないように目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮する。一人一人の誇りやプライバシーを傷つけないように職員の態度、言葉使いを徹底している。	挨拶と言葉使いには特に気をつけ、穏やかに優しく話し掛けるよう心掛けている。利用者の尊厳については日々話し合いを重ね、プライバシーを損ねないように取り組んでいる。利用者への声掛けは基本的には苗字に「さん」付けでお呼びしているが、場合によっては親しみを込め「ちゃん」付けでお呼びする時もある。各居室に入る際には元気な声で「失礼します」と声掛けをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者とは過ごす時間を通して利用者に合わせて声掛けをし、利用者の希望・関心・嗜好を見極め、それを基に日常の中で本人が過ごしやすい環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが時間を区切った過ごし方はしていない。一人一人の体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を行っているよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人主体で身だしなみを整えられるよう職員はお膳立てしたり不十分なところや乱れをさりげなく直している。本人の好みや意向を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるようにしている。旬の食材や新鮮な物を採り入れている。季節の行事食も取り入れている。	食形態はキザミ、トロミの方もいるがほとんどの利用者は自力で食事が出来る。一週間分の食材を買い、管理者が中心となり献立を立てている。また、利用者の希望を聞いて買い求め、旬の食事も楽しんでいる。ひな祭りや敬老会に合わせたり、赤飯の日、ラーメンの日を計画するなど、月一回は行事食の日を設け食事を楽しんでいる。誕生日には全員でケーキを作り、歌を歌ってお祝いしている。	

グループホーム 恵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事の摂取量の確認と記録、食べ方の変化の記録と情報を共有・食事形態の工夫。毎食時、おやつ時の水分摂取量の確認と記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。本人のレベルに合わせ全介助や半介助している。夕食後には義歯を洗浄剤につけて消毒している。ご自分で出来る方にはやって頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立されている方はもちろんだがオムツ使用の方でもトイレ誘導をし排泄して頂けるよう支援している。	現状、利用者全員が全介助で、リハビリパンツとパットを使用する方とオムツを使用する方がほぼ半数という状況である。夜間は全員が車イスという状況で、頻回にトイレを使用する方はトイレ近くの居室で暮らせるように配慮している。排泄チェック表にてパターンを掴み、時間を見てトイレにお連れするようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無を確認し本人の排便コントロールの状況に合わせて下剤を服用したり浣腸を行っている。また食事摂取量と水分摂取量の観察をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に沿った入浴が出来るよう健康状態や事故防止に気を付けながら出来るだけゆったり入浴できるよう見守っている。	浴室は明るく広く、大きな窓があり、4方向から介助が出来る浴槽でゆったりと入浴できる。基本的に週2回入浴するよう取り組んでいる。入浴拒否の方もいるが時間を変えたり人を変え対応している。利用者全員が全介助で浴槽に入る時は職員の二人介助で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを作る。一人一人の体調や希望を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援する。また寝つけない・不安な気持ちがあるときには話をしたりしばらく付き添う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は看護ファイルにまとめてあり、いつでも全職員が確認する事ができる。常薬や薬の追加等は看護師より振り分けられ、誤薬のない様にと与薬している。本人にも薬の説明をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人一人の出来る事を見出し、お願い出来るような仕事を頼み感謝の気持ちを伝えるようにしている。編み物、貼り絵等の趣味を生かして頂いている。		

グループホーム 恵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の体調や気分によって近所への散歩や車で外出に出掛けている。お花見(桜)や薔薇園等にも出掛けている。	現状、全利用者が外出時、車イスという状況である。天気の良い日には玄関先より外に出て北アルプスの山々を見ながら外気浴を楽しんでいる。また、車イスで近隣を散歩し季節の花などを楽しみ、近所の方々とも挨拶を交わしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	90歳以上の方が多いため家族との話し合いによりお小遣い程度のお金を預かる。月に1度家族と職員でお小遣い帳の確認をしている。現在は1名である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり手紙を書ける方には希望に沿えるようお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所とホールがカウンターのみで仕切られているので調理している姿が見えたり匂いを感じる事が出来る。また食事作りを手伝って頂く事もある。居間には季節の行事に合わせた飾り物をしたり季節の花を飾っている。	一日の大半を過ごすホールは整理整頓が行き届き清潔感が漂っており、柔らかな表情の利用者と笑顔で接する職員の姿が見られた。また、空調は床暖房とエアコンで快適である。更に、落ち着いた照明の下、BGMが流れ、なお一層気持ちが和らぐのではないかと感じられた。壁の掲示板には利用者の作品と日々の暮らしを収めたスナップ写真も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーには小さな座卓があり冬場は炬燵が置かれる。また居間には大きな机があり利用者同士話をしたり新聞を読んだりして頂ける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に利用者の使い慣れた馴染みの物を持ってきてもらう様話している。布団もご本人の物を持ち込んで頂いている。壁には写真や本人が作成した作品等を飾っている。	各居室には使い慣れた家具やテレビ、馴染みの物が置かれている。また、職員が制作した仏壇があり、壁には家族の写真や自分の作品、誕生日の写真等も飾られ、利用者一人ひとりの生活の場が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでホール内、トイレ内には手すりがあり安全な環境の中で「出来ること」をやって頂いている。		